

定義  
「財務・非財務資本の蓄積による持続的な価値創造力の向上プロセスに重大な影響を与える事象」

マテリアリティの考え方

当社では上記定義に基づいて重要課題(マテリアリティ)を取締役会において定め、資本循環の促進要因（機会）と阻害要因（リスク）の両面から捉え管理しています。

また当社では、社会情勢や価値観が変化し、その変化がさらに企業価値にも影響するという「ダイナミック・マテリアリティ」の考え方のもと、経済や社会の情勢変化に伴って生じる論点を適切にくみ取るため、毎年度レビューを実施し、取締役会に報告しています。レビューにあたっては、上記の他、グループとしてのリスク認識、ステークホルダーからの要請なども考慮に入れています。

当社は、2015年度に初めてマテリアリティを特定し、

以後2019年度、2022年度に改定しています。2022年度の改定時には、コモンメトリクス<sup>※</sup>を起点に「マテリアリティテーマ」を抽出し、当社パーパスと経営戦略上のテーマから、実現したい社会と価値に関する項目に整理し、現行のマテリアリティを特定しました。

2024年度における定期レビューでは、米国における大統領選挙に伴う政策方針の転換、地政学的リスクの高まりなど、政治・経済情勢における不確実性の高まりが想定され、社内外の環境変化には留意が必要なものの、現行マテリアリティに変更はないことを確認しています。

■ コモンメトリクス<sup>※</sup>を起点としたマテリアリティの特定



※「持続可能な価値創造のための共通指標と一貫した報告を目指して」(Toward Common Metrics and Consistent Reporting of Sustainable Value Creation)における共通指標